

「文学作品の価値を問う」ガイドンスプリント

〈単元の目標〉

文学作品の価値について批判的に検証し、他者と対話したり自分の考えを深めたりすることができる。

〈問い〉

「『こころ』は本当に名作か？」

教科書に載っている古い小説は本当に名作と言えるのか？作品の評価は時代とともに変わる。どんな作品を評価し、どんな作品を評価しないかは、「みんな」で議論しながら決めるものだ。現代に生きる私たちの視点から、「名作」の価値を改めて問い直してみよう。それは、文学作品のもつ価値について本質的に考えることにもつながるだろう。

〈授業の流れ〉

- ①初発の『こころ』評を書こう。
- ②『こころ』がこれまでにどう評価されてきたか整理しよう。
- ③『こころ』を批評するためのメモを作ろう。
- ④『こころ』の評価をめぐってパネルディスカッションをしよう。
- ⑤『こころ』の批評文を書こう。

〈準備する物〉

- ・『こころ』の本文（紙の本の方が望ましいが、タブレットで青空文庫を参照することも可）
- ・筆記用具
- ・タブレット

〈評価の仕方〉

⑤で書く批評文を中心に総合的に評価します。目指してほしいのは、「言われなければ気付かなかったことを、根拠を明らかにして論じること」で、作品の本質が明らかになる」文章です。評価は、次のような探究ルーブリックを用いて行います。学習の指針にしてください。

	オリジナリティ	引用の適切さ	反対意見の考慮
S	独自の視点や言葉を用いて新鮮な指摘をし、作品の新たな一面を明らかにしている。	論旨に沿って的確に本文を引用し、説得力をもって鋭い分析を行っている。	反対意見を考慮しつつ、自分の主張の論拠を説得的に述べることで、乗り越えている。
A	独自の視点や言葉を用いて新鮮な指摘をしている。	論旨に沿って本文を引用し、説得力をもって分析を行っている。	反対意見を考慮しつつ、一貫した自分の主張とその論拠を述べている。
B	自分なりの視点や言葉を用いている。	論旨に沿って本文を引用し、分析を行っている。	反対意見を考慮している。
C	他者の指摘や語彙をなぞっただけになっている。	引用や分析が不適切である。	反対意見の考慮が不十分である。

〈学習のアドバイス〉

今回の授業は与えられた問いに対して正しい答えを導く力を基礎としながら、また異なる種類の能力——自ら問いを設定し、他者との対話を通して考えを深めていく力を身につけることを意図しています。戸惑いもあるかと思いますが、大切なのは本文に向き合い、自分の感じたこと・考えたことを表現しようという意欲や姿勢です。失敗してもいいので、たくさん読み、考え、他者と話しましょう。

